

ICT ver.

図書館通信

みなさん、こんにちは。

今回は修悠館の先生たちがオススメの短編をご紹介します！（抜粋）
図書館の入り口にコーナーを作って本をおいているのでスクーリングが始まって登校したら、ぜひ見に来てください。それまでは3密をさけて、STAY HOME。もうひと頑張り。



■さがしもの 角田光代 新潮文庫

本を読まない人に本の魅力を気づかせる短編集。本書のタイトルとなった物語「さがしもの」は病床の祖母が読みたいと切望する本を探す話。特にオススメ。

●燕雀の夢 天野純希 角川文庫

「あ！この本の主人公は全部『お父さん』なんだ」とわかって、「目のつけどころがすごいなあ」と感動。

■出発は遂に訪れず 島尾敏雄 新潮文庫

まさに8月15日、(ラジオ放送を通して天皇から無条件降伏を日本国民に伝えられた日)その前後の筆者本人が経験した極限状況を描いた作品。

●トラちゃん 群ようこ 集英社文庫

群ようこのエッセイは面白い。『トラちゃん』は、動物と家族エッセイの名作だ。昭和っぽくて、楽しい。

■伊豆の踊子 川端康成 新潮文庫

孤独をかこち、伊豆に一人旅に出た主人公が、道連れになった14才の踊子にほのかな思慕の念を抱き、頑なだった心がだんだんほぐれていく。・・・こんなに綺麗な小説があるんですね。

●風に舞い上がるビニールシート 森絵都 文春文庫

人の命も、尊厳も、ささやかな幸福も、ビニールシートみたいに簡単に舞い上がり、もみくしゃになってとばされていく世界。自分たちの責任もしくは贖罪とは・・・。

■機械 横光 利一 新潮文庫

句読点、段落が極端に少なく、文字ばかりがびっしりと並んでいる。その無機的な文章の網の上に、錯綜し矛盾し、平衡しもつれ合い逆転する人間関係が展開する。実験小説とも不条理を表した小説とも言われた作品を読んではみませんか。

*この作品は青空文庫でも読めます。

https://www.aozora.gr.jp/cards/000168/files/907_54297.html

今回は読みやすい～難しい？まで、ほんの一部をご紹介します。
これらのおすすめ短編をまとめた冊子、ぜひお持ちくださいね。

See You ♪

